



式辞

梅の便りがちらほら聞かれ、日差しが日に日に明るくなっていくのが感じられる今日の良き日、ここに滋賀県立虎姫高等学校第七十回卒業証書授与式を挙げていくことは、この上もない喜びであります。

式を挙げるに当たり、多数のご来賓の皆様にご臨席いただき、誠にありがとうございます。また平素から本校に頂戴しておりますご支援、ご厚情に対しまして、高壇からではございますが、重ねて、厚く御礼申し上げます。

さて、ただいま卒業証書を授与いたしました二三名の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは、入学から今日まで、本校において様々なことを学びました。授業、学校行事、部活動等、振り返ればあっという間であったかもしれません。しかし、皆さんは、晴れた日も雨の日も風の日も雪の日も本校で学び、そして今日卒業式を迎えることができたのです。先ず、自分自身の努力を称えて欲しいと思います。そして、この歴史ある虎姫高校の卒業生になれたことを誇りに思ってもらいたいと思います。

皆さんが虎姫高校へ入学されてから三年の間に世の中は大きく変化をしてきました。例えば、人工知能AIが存在感を増してきました。囲碁の世界チャンピオンすらAIに完敗しました。近い将来、現在ある職業の多くが、AIに取って代わられるのではないかとの予想もあります。

また、国際情勢も大きく変化しています。中東や東アジアで緊張感が高まっており、日本にも、大きな影響が出てきています。

そのような、変化の激しい世の中にあっても、皆さんには、本校の校訓や校風である、「質実剛健」「独立自尊」「方円自在」の精神を胸に、守るべきことは守り、変えるべきところは変えながら、たくましく未来を切り開いていってほしいと思います。

皆さんの卒業にあたって、二つの話をします。一つは、「本校で培った力について」、もう一つは「ふるさとを思う気持ちを持つこと」です。

平昌オリンピックでは、日本勢の活躍が続き勇気をもらいました。その中で私は、フィギュアスケートの羽生結弦選手とスピードスケートの小平奈緒選手のコメントに注目しました。

羽生選手は、数々のけがを乗り越えて復活し、金メダルを獲得しました。羽生選手はこう言っています。「受けた助言や自分のひらめきを言葉にして書き留めています。試合で負けた後や失敗した後に多くを語って、自分の頭を整理し、記録することが大切です。」

小平選手は、女子スピードスケートで初めて金メダルを獲得しました。小平選手は、年に一度スケート技術の語る日があります。自分のスケート技術について信州大学のスケート部の部員を相手に話すのだそうです。小平選手が大学二年の時から十二年間続けているといいます。滑走時に意識した点などを、毎日メモに書き記した技術カルテを参考に、自分の頭の中を整理しながらスケート技術を言語化する作業です。今回の金メダルは、そのような積み重ねがあつてのことであると思います。

自分の頭の中を整理して言語化することの重要性を2人の金メダリストは示してくれていますが、これは、本校のSSH事業で育ててきた「表現力」に他なりません。

本校のSSHでは「表現力」の他にも「探究力」や「協働力」、「主体的な態度」、「科学的な態度」を身につけることを意識して教育活動を展開してきました。一年次の秋に実施したサイエンスフィールドワーク、二年次の夏に実施したサマーセミナー等の行事や日々の学習活動を通して皆さんは、自然とそのような力を身につけてきました。

これからは、身につけた力を存分に大学や社会で発揮する番です。うまく発揮すれば、様々な分野での金メダルにつながるはずで、活躍を期待します。

次に、「ふるさとへの思いを持つこと」についてです。

皆さんは、これから活躍の場を全国各地へと広げていくことになります。数年後、職に就くときに、地元に戻ってくる人もいます。また、地元を離れて就職する人もいます。中には、日本を飛び出して、海外で活躍する人もいます。

私は、昨年末に一年生の二人と一緒に、東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学を見学してきました。そのとき、東京周辺に在住の本校OBの方々に大変親切にして頂きました。そして、母校虎姫高校やふるさとへの熱い思いを沢山聞かせて頂きました。

そのとき私は、母校やふるさとへの貢献の仕方には二通りがあることに気付かされました。一つは、地元に残り直接的な形で地元を盛り上げること、もう一つは、地元から離れながらも、ふるさとへの思いを持ち続け支援することです。その二つの形はどちらか一方だけでは発展性や実現性に欠けます。

皆さんは、将来どちらの形を選択するのでしょうか。どちらであっても、母校やふるさとへの思いを持ち続けてもらいたいと思います。そのことが、虎姫高校やふるさと、そして滋賀県や日本の健全な成長につながっていくと、私は確信します。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。入学から今日まで、平坦な日々ばかりではなかったと存じます。陰に日向にお子様に寄り添いながら迎えられた今日、皆様方の胸には様々な想いが去来しているものをご推察申し上げます。お子様は、本当に立派に成長されました。そして、これから新たなステージへ飛び立とうとしておられます。我々は、お子様が、その新たなステージで立派に活躍されるものと信じております。また、この三年間、本校教育にご理解、ご協力いただきましたことに対して、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

それでは、二三名の卒業生の皆さん一人ひとりの前途に幸多からんことを祈念いたしまして、式辞といたします。

平成三十年三月一日

滋賀県立虎姫高等学校
校長 三上保彦